

令和4年度 全国学力・学習状況調査(6年生111名実施)の結果から

我孫子市立高野山小学校
学力向上委員会

国語

○観点別正答率

- ・「話すこと・聞くこと」は平均より上回っている。
- ・「読むこと」の観点についても、平均より上回っている。
- ・「書くこと」の観点については、平均より下回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・「選択式」と「記述式」の正答率は、平均より上回っている。
- ・「短答式」の正答率については、やや下回っている。

算数

○観点別正答率

- ・「数と計算」、「変化と関係」、「データの活用」については、平均よりも上回っている。
- ・「図形」の観点については、平均より下回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・「選択式」、「短答式」については、平均より上回っている。
- ・「記述式」については平均より下回っている。

理科

○観点別正答率

- ・教科全体的としては、市や全国の数値とほぼ同じであった。
- ・「生命」や「エネルギー」がやや下回っている。

○問題形式ごとの正答率

- ・おおむね全国平均と同じ正答率を出しているが、「記述式」については5割を下回っている。

児童質問紙調査

○算数への関心、生活習慣・学習習慣は全国平均とほぼ同じである。

○国語への関心、規律意識は少し低く、自己有用感と理科への関心は他の4つの数値と比較しても、低いことがわかる。

<結果からわかる成果と課題への取り組み> ○…成果 ▲…課題

国語

「話すこと・聞くこと」

○国語の学習だけでなく、他教科でも子ども達の対話する場面を設定することで、話し言葉と書き言葉の認識が高まっている。

▲互いの立場や意図を明確にしなが、計画的に話し合い、自分の考えをまとめることが乏しい。学習だけでなく、生活場面の中でも、意図的に自分の考えを話す場を設定することで、より力を伸ばしていきたい。

「書くこと」

○文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整えることができる児童が多い。

▲問題は、文章中から言葉や文を取り上げ、適切な表現を用いることや、自分の聞いたことや頑張りたいことを60字以上100字以内で書くという問題で、解答の傾向を見てみると、「無回答」が多かった。このことから、聞いたことや経験したことなどを用いることだけでなく、文章から情報を抜き出すことができている児童が多いことがわかる。

<授業改善>

- ・昨年度から言われていることだが、日常的に書く場面を多く設定し、認め承認する場面を多く設けることで、苦手意識を少しずつでも解消していくこと。
- ・書くことについても、より具体的なものを書くようにし、交流等を通して、書くことが楽しいと思えるような活動を設定すること。

例) ×読んだ後に感想を書きましょう ➡ ○このお話の中で一番好きな場面を書きましょう (理由も)

×書いたものを発表

➡ ○みんなでノートを持ち寄って、同じ場面の人を見つけ、理由を交流等

「言語事項」

▲児童の答えを見てみると、「反省」という言葉を漢字に書きなおす際、7割近くの児童が正答か「反」のみ書けているが、「省」という字がわからない児童が多くいた。また無回答の児童も数名いた。

<授業改善>

- ・モジュールの時間を使い、ドリル学習で繰り返し練習させたり、習った漢字を使ってノート整理や新聞を書かせたり繰り返し使う習慣を各教科で取り入れ、環境を整える。練習だけでなく、習熟を図れるように小テストを実施する。

「問題形式」

▲今回のテストでは、記述式と短答式に「無回答」が多かった。文章から言葉や文を取り上げ、聞いたことや経験したことをまとめて書くことが苦手である。この後の算数でも触れているが、自分の考えを文章で伝えるという力が足りていない。

- ・国語だけに限らず、さまざまな教科で、自分の考えや意見を文章化するということが必要になってくる。

算数

「数と計算」

○ 1050×4 などのかけ算を正しく計算することができる児童が多い。

▲かけ算やわり算を活用して最小公倍数や一つの値段などを考察し、解答する力に課題がある。

<授業改善>・習得した知識を活用する。発展問題に多く取り組む時間を、授業の中で意図的に設ける。

・授業内の習熟問題だけでなく、繰り返し問題を解き進める時間を位置づけて取り組ませる。

「図形」

○図形を構成する要素に着目して、長方形やひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している児童が多い。

○正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる児童が全国平均より上回っている。

▲示された作図の手順を基に図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断することに課題がある。

<授業改善>・習得した知識を活用する時間を、授業の中で意図的に設ける。

例) 図形の情報を基に、作図する練習問題を行う。

(できれば、作図だけでなく、言葉でも説明できるようになど工夫して)

・授業の中に、自分の考えを相手にわかりやすく伝える場面を設ける。また、図形の定義を再認識させるため、再度説明させる。

例) どんな図形になるかな?⇒なぜその図形になるのか伝え合いましょう。

小さなことだが、このように相手に伝える習慣をつけることで、説明するための素地を培う。

「変化と関係」

○百分率で表された割合を分数で表すことができる児童が多い。

○百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。

▲果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しい物を選ぶ事に課題がある。

<授業改善>・習得した知識を活用する時間を確保し、授業の中で意図的に設けることが必要。また、生活体験と結び付けた学習にしていく。

例) ジュースの量が変わっても、味は変わらないようすを理解できる工夫をする。

「データの活用」

○表の意味を理解し、全体との部分の関係に着目し、ある項目に当たる数を求めることができる児童が多い。

○目標に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる児童が多い。

<授業改善>・算数科だけでなく、資料を整理したり読み取ったりする場面を関連付け指導にあたる。また、必要性を考えさせる意図的な指導を継続して行っていく。

「問題形式」

▲記述式の問題の正答率が、全国平均よりも低かった。

▲国語でも、述べたようにさまざまな教科で、自分の考えや意見を文章化するということが必要である。

・授業だけでなく、児童にきちんと自分の考えを説明する場を設ける。

・生活体験と結び付けた問題を解くことにより、自分が体験したことをもとに、根拠をもって学習を進められるようにする。

理科

「A区分 エネルギー」

○問題に対するまとめを導き出すことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録することができる児童が多い。

○鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書けている児童が多い。

▲問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書くことに課題がある。

<授業改善>

- ・実験結果や観察でわかったことをもとに授業毎の考察を大切にすること。
- ・自分の考えを持てるように、学習でのポイントを掲示物や板書でおさえ、まとめる時間の確保を行っている。

「A区分 粒子」

○水溶液の凍り方について実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶことができる児童が多い。

○凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見出された問題を記述することができる児童が多い。

▲水50 mLを量り取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ問題に課題がある。

<授業改善>

- ・実験器具の操作の仕方を児童一人一人が主体的に学べる工夫をする。
- 例) ・操作する児童を固定せず、グループの中で輪番制にし、全ての児童に体験的学びを提供する。
- ・デジタル教材を活用し、児童が視覚的に操作方法を理解できる機会を取り入れる。

「B区分 生命」

○ナナホシテントウの成長について、問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる児童が多い。

○昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選べる児童が多い。

▲育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べものに関する問題を見出すことに課題がある。

<授業改善>

- ・観察などで得た結果を、気づいたことを基に考えを広げ深める指導の工夫をする。
- 例) ・観察カードの掲示。 ・観察カードを活用した伝え合い。
- ・観察した動植物だけでとどまらないよう、他の動植物への興味を持てるような支援を行う。

「B区分 地球」

- 鉄の棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを記述できた児童が多い。
 - 鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書けている児童が多い。
 - ▲予想から得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる。
 - ▲観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことに課題がある。
- <授業改善>
- ・実体験と学習内容を結びつけられるように、予想の時間を大切にする。
 - ・予想を基に問題を解決するために実験の仕方を考える場を設ける。

「問題形式」

- ▲問題形式では、本校の数値はおおむね平均値と同様であるが、「記述式」と「選択式」の問題の正答率が、全国平均よりも下回っていた。
- ▲学習で学んだ基礎知識を自分の考えや意見を基に文章化するということが必要である。また、知識を身近な現象と結び付けて考える力に課題がある。
- ・遊びや体験の中から学びに結びつく発見をさせ、子ども達に具体的な言葉で表現する場面を設けることで、子どもに理科的な思考の素地を身に付けていきたい。
- ・授業だけでなく、児童にきちんと自分の考えを説明する場を設ける。

児童質問紙・クロス調査から

- ・全体的に数値が高まってきている。質問については、全部で69個あり、学習面・生活面等、多岐に渡る質問項目がある。昨年同様、生活習慣がきちんと成立している児童ほど学力が高くなっている。国語や算数について興味・関心の強い児童ほど、学力が高くなる傾向にある。昨年度から学習習慣定着を図る高野山メソッドを校内統一で行うことで、学習習慣への意識が高まり、成果として表れた。今後も家庭と連携を行い児童の学習習慣の定着に努めていく。
- ・今年度は、各教科で導入から課題設定へ進む授業の流れを校内で統一して行った。また、校内研修で算数を中心に研修を深め、指導主事からの指導助言を基に職員全体で授業改善に取り組んできた。児童の興味関心を引くよう、生活に根ざした素材を提示し、問題解決していくことで、教科への興味関心を持続させることに繋がっている。その成果が数値に現れ始めたと考えられる。昨年度と比べても教科への関心は高まっており、教師の指導の統一化が児童の学習への意欲につながっている。